



別府市消防団報『暖』

1号



消防団は、地域防災の要として「地域や家族を守りたい」そんな思いで活動をつづける暖かい活動集団です。



別府市消防団長
片岡 典之

団報「暖」発刊を迎えて



別府市消防長
笠置 高明

別府市消防団報「暖」第1号が発刊の運びとなりました。消防団は、様々な職業に就きながら、火災をはじめとする各種災害に身を挺して郷土を守る、崇高な任務を担っています。

特に別府は、12万市民のみならず、年間多くの観光客が世界に誇れる温泉を楽しみに訪れております。その方々も含め、「安心して過ごせる 安全な別府」のために、消防本部・署員の皆さんとともに活動をしています。

今回、この団報「暖」により、その活動の一端を皆様にお伝えできれば幸いです。

今後は、多くの皆様から投稿などもいただき、充実した内容に努めますのでご支援と・ご協力をお願いします。

この度、別府市消防団報「暖」の創刊にあたり、一言お祝いを申し上げます。

団長をはじめ団員の皆様には、「市民の生命財産を守る」という尊い郷土愛の精神で、日夜消防団活動を活発に展開されていることに、深く感謝申し上げます。

全国的に消防団員の減少が取りざたされている昨今、この団報「暖」の創刊が、団員の増員や活性化の一助に繋がることを期待しています。

結びに、この団報「暖」が、市民や消防職・団員に親しまれる、コミュニティー広報誌となるようご祈念申し上げます、お祝いとさせていただきます。

☆☆☆第28回大分県消防操法大会を終えて☆☆☆

平成26年8月24日(日)、大分県消防学校の屋外訓練場において県下16消防団よりポンプ車の部7チーム、小型ポンプの部16チームが出場し、時折雨の降る中熱戦が繰り広げられました。

別府市からは、小型ポンプの部にしてくれました。

仕事を終えた夕刻に各選手が集員同士の結束も深まり大会に参加

この大会の出場に際し、訓練開始一丸となりサポートされた結果は、



第11分団が出場し、日頃の練習成果を発揮

まり、4ヶ月間にのぼる訓練を積み重ね、団

した以外の成果も得たものと感じました。から、大会までの間、家族の協力や分団員が今後の団活動に繋がるものと思います。

指揮者 森 裕二、1番員 松本英一、2番員 園田雅彦、3番員 是永義人、補助員 河野健司
第11分団の皆さん、お疲れ様でした。

礼式の一部が改正となりました

☆着帽時

小隊の解散「別れ」の号令の後、に各隊員の挙手注目の敬礼に対する指揮者の答礼

☞従来

挙手注目の敬礼をし、隊の中央を見、右翼から左翼を見通し、隊の中央に戻り答礼を終わる。

●改正後

挙手注目の敬礼の後、正面に向いたまま、挙手注目の敬礼をし、一呼吸して答礼を終わる。

※ 右翼から左翼への見通すことなく答礼を終わります。



新入団員紹介



戸口 武晴	第九分団二部	藤内 智里	岡田 道	第九分団一部	中原 太	豊島 達也	福田 義康	第八分団二部	佐藤 隆春	第八分団一部	小野 誓也	富尾 洋貴	山田 孝幸	第七分団	阿部 真一	第六分団	小野 陽平	第四分団	佐藤 淳心	河野 賢太郎	第二分団	草村 侑司	第一分団	福本 美香	阿部 晴香	女性分団



平成二十六年度は、二十五名の方々が新たに入団されました。先輩団員の皆さん、ご指導をお願いします。

年間主要行事

- 四月 扇山火まつり警備 団員辞令交付式 幹部行政視察研修(県外)
- 五月 危険予想箇所防災パトロール
- 六月 第一回分団長会議
- 九月 第一回県下消防団幹部研修会
- 九月 市民救急フォーラム BAPPU
- 十月 第二回分団長会議
- 十月 団員辞令交付式
- 十一月 消防団装備品点検
- 十一月 全国女性消防活性化大会
- 十一月 「秋季火災予防運動」分団管轄内防火広報活動 市民と消防のつどい
- 十二月 高齢者一人暮らし防火訪問(女性団員)
- 十二月 消防殉職者慰霊祭(消防学校)
- 十二月 大分県消防大会
- 十二月 第三回分団長会議
- 十二月 第二回県下消防団幹部研修会
- 十二月 消防団年末特別警戒
- 一月 団員教育中級幹部科(学校入校)
- 一月 消防出初式(スバビーチ)
- 二月 第四回分団長会議
- 三月 消防団幹部研修会
- 三月 女性消防団員研修会(大分市)
- 三月 「春季火災予防運動」分団管轄内防火広報活動
- 三月 消防団春季訓練
- 三月 高齢者一人暮らし防火訪問(女性団員)
- 三月 新入団員教育訓練
- その他
- 消防団員個別訓練
- 地域防災訓練



ポンプ車・積載車が12月に新しく配備

第2分団



車種 日野 消防車 型式 TKG-XZU600E

長さ529cm 幅188cm 高さ233cm

総排気量 4,000cc 使用燃料 軽油

車両高を235cm以下とし、可能な限り低く機装し、JR高架下(所在:別府市両群橋)を通行可能にしています。

ポンプ CD-I型(小川ポンプ製)

第8分団1部



第14分団



車種 日産 消防車(積載車) 形式 CBF-SQ2F24

長さ495cm 幅169cm 高さ223cm

総排気量 1,990cc 使用燃料 ガソリン

ポンプ B-3級(トーハツ製VF53AS)

車種 日産 消防車(積載車) 形式 SDG-SZ5F24

長さ496cm 幅169cm 高さ223cm

総排気量 2,950cc 使用燃料 軽油

ポンプ B-3級(トーハツ製VF53AS)

▶ 平成26年度から団員さんの退職報償金が変わりました

消防団員として5年以上勤務して退職した団員さんには、階級及び勤務年数に応じて支給されます。

・ 別府市の給付額

(単位:円)

	5年以上~10年未満	10年以上~15年未満	15年以上~20年未満	20年以上~25年未満	25年以上~30年未満	30年以上
団 長	239,000	344,000	459,000	594,000	779,000	979,000
副団長	229,000	329,000	429,000	534,000	709,000	909,000
分団長	219,000	318,000	413,000	513,000	659,000	849,000
副分団長	214,000	303,000	388,000	478,000	624,000	809,000
部長・班長	204,000	283,000	358,000	438,000	564,000	734,000
団 員	200,000	264,000	334,000	409,000	519,000	689,000



消防団員募集中

あなたが地域を守る大きな力となります

あなたの力を
買ってください



【問い合わせ・申し込み先】

消防団員募集推進委員(各分団長・副分団長)

別府市消防本部 庶務課 (☎代表 25-1122 直通 25-1123)

e-mail: fire-dep@city.beppu.oita.jp

消防団幹部視察研修

*平成26年4月20日(日)～22日(火)

団長以下20名・職員随員1名の計21名で、私どもの記憶から消すことのできない、東日本大震災の被災地となりました、岩手県釜石市・宮城県石巻市を視察させていただきました。

3年を経過した現在も当時の生々しい被災状況が至る所で伺え、改めて自然災害に対する人間の弱さを感じたところです。



今回、釜石市消防本部と石巻市消防本部に伺い、被害の詳しい状況と消防職・団員の活動について説明を受けた後、現地の視察には消防本部の担当者がバスに同乗していただき、復興の様子を熱く語ってくれました。

現地での昼食を、仮設の店舗で営業をしている食堂で取ることになり、店主の「どちらから？」と聞かれ、「九州の別府からです。」と答えると、「九州からもたくさん応援に来ていただき、本当にありがとうございました。」とお礼を言われ、その後店主の九死に一生を得た体験談を聞くことができ、防災に携わる私たちの使命を改めて実感する視察研修となりました。

今回お世話になりました両市消防本部の消防長はじめ、担当していただいた職員の方々に深く感謝申し上げます。

施設消防団係長 上野和徳

団幹部紹介

団本部

- 団長 片岡 典之
- 副団長 藤内 英伸
- 副団長 内村 誠七
- 本部分団長 中嶋伸一郎

分団

- 女性分団長 原田かほる
- 第1分団長 小野 征治
- 第2分団長 月足 原之
- 第3分団長 浦野 洋史
- 第4分団長 関 正勝
- 第5分団長 岩尾 一裕
- 第6分団長 彌田 万平
- 第7分団長 平松 幹雄
- 第8分団長 脇 博之
- 第9分団長 藤内 正行
- 第10分団長 松田 正一
- 第11分団長 菅野 万章
- 第12分団長 大野 武人
- 第13分団長 荒金日出夫
- 第14分団長 齋藤 孝一
- 第15分団長 後藤 毅
- 第16分団長 小川 健
- 第17分団長 佐藤 博幸



【格納庫が新しくなりました】



鉄輪御幸2組にあった旧第11分団格納庫が、この度火売1組の市民課朝日出張所の南側に新築移転となりました。

去る2月8日(日)には、市長をはじめ関係する方々をお招きし、「完成お披露目会」を行いました。

市長直筆の看板や、シャッターには、別府市の観光宣伝部長「べっぴょん」が

描かれ、県道までには約10mの空地を設け、出動時の安全確認が容易になりました。今後、地域の守りの拠点となることでしょう。

お近くに来られた際には、是非ご覧下さい。

編集後記

突然、消防団の広報誌作成を任された。「ムリ！」まさかの依頼を受け、「何とかなるだろう!？」と未経験の私が初版に挑むことになったが、理想の広報誌と現実の力量との狭間で悩みつつも、何とか送り出した第一号です。

施設消防団係 T. yamakawa

叙 勲

平成26年春
端宝単光章
元第7分団長 平松 剛 様

平成26年秋
端宝単光章
元第1分団長 西野 肇 様
誠におめでとうございます。

・・・叙勲とは・・・
国家又は公共に対して功労のある者に対して勲章を授与し、榮譽を与えることを言う。